CIRJE Newsletter

東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センターニューズレター

No.14

2010年10月

Center for International Research on the Japanese Economy Faculty of Economics University of Tokyo (CIRJE)

■コンファレンス開催報告■

http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/03research04conf_j.html

当センターは国際的な学術会議を定期的に主催しており、多くの研究者や実務家の方々に参加していただいている。

コンファレンス開催報告1 日中韓3国コンファレンス

2010年8月20日

日本経済とアジア経済との有機的連携の重要性が増すなか、東京大学日本経済国際共同研究センターでも東アジアの有力大学との研究ネットワークの構築に力を入れている。東京大学・北京大学・ソウル国立大学の3大学を核とした日中韓3国コンファレンスもその一つで、北京大学・ソウル国立大学のビジネススクールの研究者と、東アジア地域が抱える金融の諸問題を取り扱う国際会議を定期的に開催している。

2010年度の日中韓3国コンファレンス（The 2010 three country conference）は、「世界金融危機とアジア市場（The Global Financial Crisis and Asian Financial Markets）」をテーマに2010年8月20日（金）、東京大学大学院経済学研究科（小島ホール）で開催された。

会議には、東京大学および日本国内の研究機関からの多数の参加者に加えて、ソウル大学からSangkee Min教授、Yeongseop Rhee教授、Sung Wook Joh教授の3名が、また北京大学からはXU Xinzhong教授とLongkai Zhao教授の2名が参加し、最近の金融危機がアジアの金融市場に与えた影響をさまざまな角度から活発に議論を交わした。

会議ではまず、東京大学金融教育研究センターを代表して植田和男教授が挨拶を行い、過去のバブルの経験を踏まえながら最近のアジアの金融市場に関して問題提起を行った。この問題提起をベースに、各セッションは世界的金融危機の影響を多角的に議論した。具体的には、第1セッションでLongkai Zhao教授（北京大学）の報告に基づき国際化した企業のパフォーマンスの観点から、第2セッションでYeongseop Rhee教授（ソウル国立大学）およびSung Wook Joh教授（ソウル国立大学）の報告に基いて政治的なインパクトや銀行救済の問題を中心に、第3セッションで福田慎一教授（東京大学CIRJE）の報告に基づき短期金融市場の観点から、それぞれ活発な議論が展開された。

詳細なミクロ・データや高頻度のマクロ・データを用いて最近の金融危機の影響を分析した意欲的な研究結果をもとに、様々な角度から金融危機がアジアの金融市場に与えた影響が議論され大変有益であった。会議の終わりに、今後も東アジア諸国が直面する重要な政策的課題を経済学の観点から活発に議論する場として3大学を核とした研究ネットワークを深め、来年度以降も日中韓3国コンファレンスを引き続き開催していくことが確認され、会議は成功裏のうちに閉幕した。

CIRJE Newsletter

目　次

コンファレンス開催報告
コンファレンス開催報告1
日中韓3国コンファレンス

■

コンファレンス開催報告2
2010 APEA Confernce

ワークショップ
経済史研究会

短期客員研究者

センターへのアクセス

■

CIRJE
ディスカッションペーパー
シリーズ

客員スタッフ

スタッフ

コンファレンス開催報告 2
2010 APEA Conference

2010 年 7 月 8-9 日

東京大学大学院経済学研究科附属・日本経済国際共同研究センター（CIRJE）では、毎年、Asia Pasific Economic Association（APEA）と協力して、定例コンファレンス を開催している。本コンファレンス・シリーズの目的は、環太平洋諸国の研究者とともに、東アジア経済が直面する諸問題を理論的・実証的に分析し、東アジア における応用経済学の研究レベルを底上げしていくことにある。近年世界経済におけるアジア経済のプレゼンスが急速に高まり、アジア経済圏に関する研究の重 要性はますます高まっている。その一方で、世界経済は「100 年に 1 度」と呼ばれた深刻な金融危機を経験し、ますます不安定性を高めている。そうした中、アジア経済でどのような制度設計を構築していくかは喫緊の課題であり、当事者であるアジ ア・環太平洋諸国の研究者が集まってこの問題を正面から取り扱う学術研究の重要性は極めて大きい。欧米でも制度設計に関する研究は盛んに行われているが、アジア経済を正面から取り扱った研究は少なく、そこに本コンファレンス・シリーズの重要性がある。

大垣昌夫教授（右）と福田慎一センター長

招待講演の様子

本年度は、2010 年 7 月 8-9 日に香港バプティスト大学で行われた APEA コンファレンスの特別セッションとして当センターに短期客員研究者として、過去に何度も滞在された慶応義塾大学の大垣昌夫教授による招待講演 "Time Discounting and Intergenerational Altruism" を主催した。講演の内容は、親の子供に対する考え方の日米比較に関する研究結果を手際良くまとめたもので、大垣教授による 行動経済学の分野における研究成果の一部である。行動経済学に関する研究は、欧米では近年盛んになっているが、東アジアの研究者の間ではまだ未成熟な研究 分野である。新しい研究分野の報告に対して大変有益な講演会であったという感想が、聴衆からは多く寄せられた。フロアーから多数の質問もなされ、講演会は 成功裏のうちに終了した。

ワークショップ

http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/03research03ws_j.html

当センターは東京大学大学院経済学研究科と密接な協力関係を保ち続けており、経済学研究科において定期的に行われている各種のワークショップを支援している。

経済史研究会

東京大学大学院経済学研究科教授
武田晴人・小野塚知二

経済史研究会では、大学院学生の研究発表と指導がなされているほか、広く内外の研究者を招いて最新の研究成果の摂取に努めている。通常は月曜日の 16:50-18:30 であるが、その時間帯以外の特別セミナーもしばしば開催されている。

今年度は夏学期にすでに、以下の各氏をお招きした。クラウス・ヴェーバー（Rothschild Archive）、大杉由香（大東文化大学）、森口千晶（一橋大学）、クリステル・エリクソンおよびビョン・ホリビィ（いずれも Örebro Universitet）、ビン・ウォン（UCLA）、ジョン・ブラウン（Clark University）、ダニエル・バーンホーフェン（University of Nottingham）、岩間俊彦（首都大学東京）、パースック・ポンパイチット氏（Chulalongkorn University）、クリス・ベイカー（GRIPS）、原朗（本学名誉教授）、藤村聡（神戸大学）。

また、12 月 13 日（月）には、市原博（駿河台大学）、ボビー・オリヴァー（Curtin University of Technology）、カトリーヌ・オムネス（Université de Versailles Saint-Quentin en Yvelines）、禹宗杬（埼玉大学）、榎一江（法政大学）などの各氏をお招きして、「徒弟制度の変容と熟練労働者の再定義 —資格、技能、学理—（Apprenticeship transformed and skilled workers redifined in the twentieth century; qualification, technique, and science, Les evolutions des apprentissages et les redefinitions des ouvriers qualifies: qualification, technique et connaissance）」と題するシンポジウムを予定している。

短期客員研究者

http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/people/07people_j.html

日本経済国際共同研究センター（CIRJE）は、海外の大学、研究機関から研究者の方を短期客員研究者としてお迎えしている。多くの優れた研究者をお招きし、東京大学経済学研究科のメンバーを中心とする日本の研究者と海外の研究者との共同研究を活性化してきた。そこで今回は、2010 年 4 月から 9 月の間に短期客員研究者として来訪された 4 名の皆様に、当センター滞在時の感想を伺った。

School of Economics, College of Business and Economics,
Australian National University

Junsang Lee

東京大学への最初の訪問は、Far Eastern Econometric Society Meeting in 2009 への参加の際であったが、その際は、東京大学の教員と充分に交流をもつ時間を取れなかった。今回は二度目の来訪となったが、CIRJE へは今夏 7 月下旬の 2 週間滞在した。この滞在では、教員との学術的交流のみならず、事務スタッフの対応にも大変感銘を受けた。

今回の滞在を手配したのは古くからの友人で共著者の藤本淳一講師であるが、今回は我々の研究 "Wage determination with private information in a life-cycle model" を大きく進展させることができた。これも CIRJE ディレクターである福田慎一教授のご招待のお陰と感謝する次第である。近いうちに東京大学を再訪できる機会があることを願っている。

Institut für die Geschichte der Deutschen Juden (Hamburg)
The Rothschild Archive (London)

Klaus Weber

石原俊時教授より東京大学 CIRJE へご招待頂き、滞在中、東京大学と京都大学で 2010 年 4 月に開催された 2 つのセミナーに参加した。私にとって初となる東京滞在は、学術的にも個人的にも大変有意義な経験となった。

最初のセミナー（経済史ワークショップ）「福祉国家研究の東西比較」では、高田実教授（下関市立大学）司会の下、大杉由香准教授（大東文化大学）と発表を行った。聴衆との実りある議論のお陰で、発表論文に基づき、ヨーロッパと日本の近代福祉国家の発展に関するそれぞれの見方を検討することができた。

京都大学での 2 つ目のセミナーは、金沢周作教授司会の下に行われ、国家ではなくむしろ福祉の複合体におけるヴォランタリーセクターに焦点を置き、ヨーロッパとアジアにおけるチャリティと慈善を比較した。具体的には陶徳民教授の論文「東アジアにおける慈善の思想」と、キリスト教の伝統のコンテクストから見た 19-20 世紀のヨーロッパにおけるユダヤ人のフィランスロピーについての自分の論文が読み上げられた。

この滞在では、大阪大学で秋田茂教授と海事史研究グループが主催するグローバルヒストリー・ワークショップで報告する機会も得た。そこでは、中央ヨーロッパ、東アジア、インドの諸主体の奴隷貿易への直接的・間接的関与に焦点が当てられた。

滞在中、日本の共同研究者達のもてなしには圧倒された。彼らはセミナー後に日本食を食べている間、そして合間を縫っての博物館、神社仏閣や御所への短い散策の間、常に最高に楽しませてくれた。私は日本語は一切分からないが、彼らの親切な心遣いのお陰で、まるで細心の注意を払って手渡される生卵のように取り扱われ、安心して行動することができた。滞在期間は一週間であったが、異文化理解を体験した、最も濃密な旅行経験の一つとなった。

Department of Economics,
Yale University

大津泰介

ほんとうに研究しかしない日ってどれくらいあるのでしょうか。雑事をしない家事をしないメールもしない夢のような一日。無人島旅行とか松坂牛のステーキとか，それぐらいレアなのでは。

2004 年からほぼ毎年 CIRJE にお世話になっていますが，何度かそんな経験ができました。CIRJE で仕事して支援室のコーヒーで一休み．食事は学食宿泊は山上会館。そんな「研究しかしないツアー」があったら結構人が集まるのではないでしょうか。

School of Politics and Global Studies,
Arizona State University

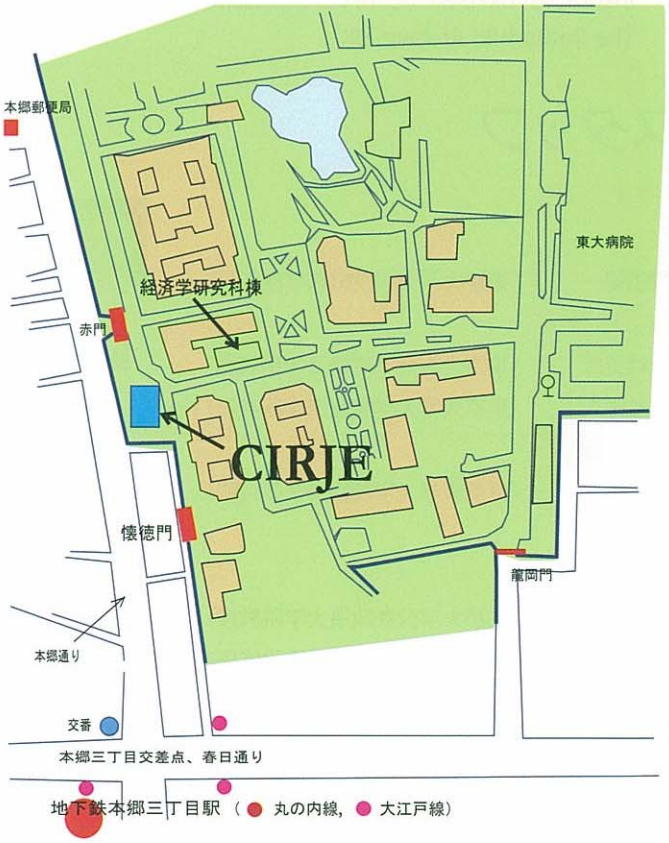
田中知美

CIRJE 訪問中は、岡崎哲二教授と共同研究を行い、経済成長と労働意欲の関連について考察しました。この研究では、90 カ国以上で行われたサーベイのデータを用いて、経済発展の段階で労働意欲がどのように変化しているのか、また労働意欲の違いが経済発展にどのように影響を与えたかを明らかにすることを試みています。また、労働意欲を規定している文化的・歴史的要因を明らかにすることも試みます。

アクセス

http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/about/04aboutcirje04access_j.html

日本経済国際共同研究センター（CIRJE）の場所は、「経済学研究科　学術交流棟（小島ホール）」の 6 階になります。



CIRJE ディスカッションペーパーシリーズ

http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/03research02dp_j.html

当センターでは２つのディスカッションペーパーシリーズ（Ｊシリーズ：日本語、Ｆシリーズ：外国語）を刊行しており、2010年４月から2010年９月は、Ｊシリーズ５件、Ｆシリーズ31件が刊行された。発行されたディスカッションペーパーは国内外の大学・研究所等に送付される他、上記のホームページからダウンロードすることも可能である。

客員スタッフ

当センターの重要な役割の一つに、海外からの研究者の受け入れと研究交流促進がある。国内外の優秀な研究者を幅広い分野からお迎えして研究活動を行っている。下記のリストはその一部である。

客員教授

Julen Esteban-Pretel
2010年４月１日－2010年９月30日
政策研究大学院大学、日本

Marcus Berliant
2010年６月１日－2010年７月９日
Department of Economics,
Washington University, USA

Tobias Kretschmer
2010年９月１日－2010年９月30日
Munich School of Management,
University of Munich, Germany

短期客員研究者

- Klaus Weber（2010年４月５-７日）
  Institut für die Geschichte der Deutschen Juden, Germany,
  The Rothschild Archive, UK
- Margaret K. Kyle（2010年４月７日，2010年４月20-26日）
  Toulouse School of Economics , France
- Sung Il Lim（2010年４月15-７月11日）
  Korea Research Institute for Local Administration, Korea
- Christer Ericsson（2010年５月６-15日）
  School of Health and Medical Sciences,
  Örebro University, Sweden
- Bruno Strulovici（2010年５月10-14日）
  Department of Economics, Northwestern University, USA
- William Edward Strawderman（2010年５月13-25日）
  Department of Statistics, Rutgers University, USA
- Tilman Borgers（2010年５月17-21日）
  Department of Economics, University of Michigan, USA
- Daniel Bernhofen（2010年５月18-31日）
  Department of Economics, The Unioversity of Nottingham, U.K.
- Jaumse Ventura（2010年７月20-21日）
  Centre de Recerca en Economia Internacional (CREI), Spain
- Junsang Lee（2010年７月26-８月５日）
  ANU College of Business and Economics,
  Australian National University, Australia

スタッフ

専任スタッフ

センター長

福田慎一　（東京大学大学院経済学研究科）

教　授

市村英彦　（東京大学大学院経済学研究科）
国友直人　（東京大学大学院経済学研究科）

准教授

澤田康幸　（東京大学大学院経済学研究科）

顧　問

翁　邦雄　（京都大学公共政策大学院教授）
神田秀樹　（東京大学大学院法学政治学研究科教授）
西村和雄　（京都大学経済研究所特任教授）
濱田宏一　（Tuntex Professor of Economics,
Department of Economics, Yale University）
水口弘一　（経済同友会終身幹事）

運営委員会

運営委員長

市村英彦　（東京大学大学院経済学研究科教授）

運営委員

粕谷　誠　（東京大学大学院経済学研究科教授）
谷本雅之　（東京大学大学院経済学研究科教授）
田渕隆俊　（東京大学大学院経済学研究科教授）

CIRJE Newsletter No.14

2010年10月

東京大学大学院経済学研究科附属
日本経済国際共同研究センター
〒113-0033　東京都文京区本郷7-3-1
tel +81-3-5841-5644　fax +81-3-5841-8294
website: http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/indexj.html